堀切菖蒲園と帝釈天散策

２０１１年５月２２日、栗林君の計画で堀切菖蒲園を散策することになった。

今回は栗林君の他、藤保君、高橋君（３Ｈ)、丸田君兄弟と丸田康夫君の奥様、島崎さん、それに井田の８名が参加した。

朝から２９度と夏のような暑さで半袖の装いに日傘姿が似合う。

午後は雨模様と天気予報では云うが信じがたい天候である。

おまけに朝７時３０分頃久しぶりに大きな余震が茨城県沖にあり、千葉県東部も震度４の揺れで京成線もダイヤが混乱し最寄りの堀切菖蒲園駅に予定通り着くか少々心配だったが、１０時半には皆集まることができた。

堀切菖蒲園駅

菖蒲祭りは６月１日から

堀切菖蒲園は住宅地の一画が東京都の公園となっており、文化年間（１８０４～１８１７）農民の伊左衛門によって栽培されたのが始まりと伝えられ、花の種類も約２百種６千株に及び、江戸時代の有様を偲びながら、数多くの江戸花菖蒲を鑑賞できると云うのがキャッチフレーズだが、菖蒲の見頃は６月上旬、まだ、数株が咲いているだけで、少々寂しい。

鴨が１羽、菖蒲の株もとに餌があるのか泳ぎ廻っていたが、よくこのような水辺も少なく自然の少ない場所に住みついたものである。いうなれば都会派の鴨なのだろう。

菖蒲園入口

堀切菖蒲園全景

あまりの暑さに涼風を求めて荒川べりにある公園に行く。

ここは昔、永井荷風が散策したところだそうだ。今は当時の面影はなく、遠くスカイツリーが望め、しっかり整備されている。

緑に包まれた公園の河川敷ではソフトボール大会なのだろうか。少年・少女が熱心にプレイをしている。もう、あの若さは戻って来ない。

荒川河川敷公園

折角ここまで来たのだから、京成線に再び乗車して柴又に行くことにする。

堀切菖蒲園から高砂で乗り換え金町線に乗って最初の駅が柴又である。さすが金町線は「寅さん」が売りだけに電車も寅さんの広告付である。

京成金町線広告

柴又は渥美清の演ずる全４８作の寅さんの「男はつらいよ」シリーズの世界で、４６作が山田洋次監督である。「寅さん」の歯切れのよい軽妙なセリフと正直な性格に笑いを誘い、この映画を愛好し観賞している者と、してない者との思いは異なるのが帝釈天参道であり、柴又帝釈天であるのはいたしかたがない。

寅さん像

柴又駅前には颯爽たる？「寅さん」の像が建っている。意外とこの前でポーズをとって写真を撮っている人が多い。

帝釈天参道は「うなぎ屋」「団子屋」「土産物屋」などが２００ｍにわたって軒を並べる門前町をなしていて日曜日のせいか結構な人混みで賑わっている。

「寅さん」映画の浅丘ルリ子演ずる「リリー」を初めとするマドンナ達が出てくるのでないかと思う参道を歩き、妹の「さくら」や「おいちゃん」こと叔父夫婦のいる「寅さん」の実家の草団子屋「高木老舗」の前を通り、創業 250 年の川魚料理の老舗「川千家」で昼食にうな重を食する。

朝からの暑さで生ビールがことのほか美味しい。「鰻あらい」も一寸わさびをつけて食べるとおつなつまみの味である。

せんべい屋

創業２５０年の川千家

柴又帝釈天は日蓮宗のお寺で、寛永年間（1629）開基し、庚申詣で江戸時代から賑わっている。

最近では「寅さん」映画の撮影場所で有名であり、
定番の笠智衆の演ずる御前様や境内を掃く佐藤蛾次郎の演ずる源公が出てきそうな気がする。

それは別として帝釈天で各人思い思いの祈願をする。この歳になると健康かな？

帝釈堂

鐘楼

水取り場

午後になると天気予報通り雨がポツリ・ポツリときだした。高砂で別れることになったが、帰路は急がねばならない。

楽しいリラックスした１日だったが、「寅さん」のような気ままな人生は羨ましい限りである。

（井田記）